

最近、しばしば大きくことであるが、高層建築の住宅で、歩き始めの子どもが、とことと、ころびながら歩くと、階下の住人から文句をいわれるとのことである。歩き始めの子どもにとって、自分の足で歩くことは、生活のすべてといつてよいくらいである。それが、「しつけが悪い」と文句をいわれるのでは、親も子もたまらないだろう。歩くことすら安心してできなくなりつつあるのが、現代の子どもの環境である。子どもの周囲からは、子どもの生活と切り離すことのできない土や水や太陽が失われつつあるし、子どもの好きな、木の実拾いや、土をは

じつて小さな虫を見つける喜びは、手の届かないところについてしまっている。しかも朝から晩まで、おとなの目が子どもをしばっている。

こういう現代の環境の中で、幼稚園や保育園が果たす役割は、急激に変化している。幼児に、子どもらしい生活をとりますことこそ、幼児教育の機関がまず確

保せねばならぬことである。幼稚園に行けば、自分らしい生活ができるという安心感を子どもにも与え、自分の生活をつくり上げることができるようになること。幼児が、どこかで子どもらしい生活ができなかつたら、人間が育つだろうか。現代の憂いである。

他方、幼稚園や保育園を見ると何と多くの問題があることだろう。巨大化し、組織化した幼稚園に、子どもは自分の選択なしに、入れられる。行くことを拒むと、登園拒否児とされ、教育的論議の対象とされる。幼児という小さなサラリーマン社会のようである。

幼稚園のための子どもではなく、子どものための幼稚園であることを、はっきりと、認識せねばならない時であると思う。せめて、幼稚園には、子どもが自分でつくり上げる生活が確保されていないか、現代の環境では人間が育たないかもしれないのである。

一九七四年の新年を迎える。(津守真)

## 幼児の教育 第七十三巻 第一号

一月号 © 定価一七〇円

昭和四十八年十二月二十五日印刷  
昭和四十九年 一月 一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内  
発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ二二ノ一  
印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一  
発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

© 本誌御購読についての御注文は発売所  
所 フレーベル館にお願いいたします